

令和元年度こうとう学びスタンダード定着度調査 結果報告書について

1 調査の概要

(1) 目的

- こどもに確実に身に付けさせたい内容を明らかにし、すべての学校でその定着を目指す「こうとう学びスタンダード」の定着状況を把握する。
- 各校でスタンダードを確実に推進し、さらにその内容の定着を徹底させるための授業改善を図る。

(2) 調査対象 ※特別支援学級（固定）の児童生徒は個の状況に応じて実施

- 小学校及び義務教育学校（前期） 児童 24,593人実施（97.7%）
- 中学校及び義務教育学校（後期） 生徒 8,012人実施（93.7%）

(3) 調査方法・内容

- 選択、短答及びアンケート形式による。
- 小学校及び義務教育学校（前期） ・学び方 ・体力 ・国語 ・算数 ・英語
- 中学校及び義務教育学校（後期） ・学び方 ・体力 ・国語 ・数学 ・英語

(4) 調査実施日

- 小学校及び義務教育学校（前期） 基準日：令和元年10月2日（水）
- 中学校及び義務教育学校（後期） 基準日：令和元年10月3日（木）

2 結果の概要

(1) 小学校及び義務教育学校（前期）

- スタンダード定着度 区平均
過去4年間と比較し、大きな差は見られないが、英語の正答率は、最終学年の6年において毎年向上している。国語では、1・2年で85%を超え、3～6年で80%を超えている。算数では、1～3年及び6年で80%を超え、4・5年では70%台後半であった。
- 英語スタンダード
今年度初めて実施した、3年・4年の英語スタンダードの結果は、それぞれ、84.9%、90.5%であった。最も正答率が高い学年は5年で、93.6%であった。
- 体力総合評価と「わくわくタイム」の取組とのクロス集計
体力総合評価の高い児童は、「わくわくタイム」に積極的に取り組んでいる割合も高い。

(2) 中学校及び義務教育学校（後期）

- スタンダード定着度 区平均
国語の正答率は、全学年で約80%となった。昨年度と比較し、大きな差は見られないが、3学年では毎年平均値が向上している。数学の正答率は、全学年75%前後となった。3学年では、正答率が毎年向上している。
- 英語スタンダード
英語アンケートの項目に、「よく聞いている」「よく伝えている」などと肯定的に回答した生徒の正答率は、否定的に回答した生徒の正答率よりも22.2～32.4ポイント高い。
- 体力総合評価と「ウォームアップタイム」の取組とのクロス集計
体力総合評価の高い生徒は、「ウォームアップタイム」に積極的に取り組んでいる割合も高い。

3 定着度調査結果を生かした今後の改善

- (1) 一人一人の定着状況の分析とその結果に基づく個に応じた指導方法の工夫と改善（教材及び学習形態の工夫、タブレットPC等ICT機器の活用）
- (2) 個の課題に応じた支援と習熟度別指導のさらなる充実（人的支援の有効活用、土曜放課後学習教室）
- (3) 主体的な学びのさらなる充実（新学習指導要領の趣旨を生かした授業改善）
- (4) こうとう学びスタンダード指導資料の改訂・活用
- (5) 英語スタンダードのさらなる定着（外国人講師の効果的な活用、TGGの活用）
- (6) 「わくわくタイム」「ウォームアップタイム」の充実
- (7) 指導改善についての効果的な取組の検証や情報の各学校への周知徹底